



# 福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2017

11月24日号

161  
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8157 福島市蓬萊町七丁目13番5号 TEL/FAX 024(529)7238

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

## 未だに残る東日本大震災と 原発事故の影響



副会長 草野 義直

私、平成29年度、30年度福島県診療放射線技師会副会長を務めさせていただくことになりました。なにぶん不慣れですが、当会発展のために努力していくつもりですので、どうぞよろしくお願いたします。

今年の夏は、天候不順で雨が多く、例年に比べ過ごしやすかった印象があります。私の住むいわき市には磐城七浜と言って、遠浅できれいな海水浴場がたくさんあります。しかし3.11震災と原発事故以降は海開きが見合わせられ、今年は塩屋崎灯台北側の薄磯海水浴場が再オープンし、四倉と勿来を合わせて3カ所のみ海開きとなりました。薄磯海水浴場は震災前までは、夏ともなると大変な賑わいでしたが、津波の被害により、住宅地の高台移転と跡地の整地化で町の景色は一変し、新たな防潮堤がそびえ立ち、何よりも未だ、原発事故の風評により、震災前の賑やかさは戻っていません。

常磐自動車道は平成27年3月1日に全線開通し、いわきから仙台方面への移動は非常に便利になりました。車でいわきから仙台方面へ走行すると、長閑な丘陵地帯や田園風景が続きますが、その風景が徐々に荒地に変わる場所が現れます。福島第1原発付近です。その風景を実際に目の当たりにすると悲しく辛い気持ちになります。7/16の福島災害医療セミナーオプション研修や8/3の福島第1原発見学会へ参加された方は同じ印象を持ったかと思います。これらへの参加は原発事故の風化防止や教訓を生かすためにも必要だと思われまじ、参加されていない人は、一度は参加されてもよいのではないかと思います。

福島県では浜通り地方を中心に未だ帰還困難区域が7市町村に存在しています。また、JR常磐線は富岡 浪江間が不通のままとなっています。浜通り協議会でも、震災後暫くは、活動の制限を余儀なくされました。

ところで、今年の4月に、畑仕事をしているとき、ふと振り返ると、大きなイノシシが私を見つけていました。7~8m位の距離だったと思います。突進してきたらどうしようと身構えましたが、ゆっくりとした歩調で山のほうに去って行ってくれたので、ほっとしました。それにしても原発事故後、人間を恐れないイノシシが増えていると聞いていましたが、本当のようです。地元でも田畑が荒らされ、イノシシ除けの電撃柵を田圃の周りに設置している農家も多くあります。

また、私は震災前までは、毎年春になると山菜の女王といわれる「コシアブラ」を採りに行っていました。その自然豊かな山々にも原発事故で放射性物質が降り注がれてしまいました。それでも事故後の2012年と今年と採りに行き、どちらの年も放射能測定を行いましたので、結果は次回報告したいと思います。

## 福島県立医科大学 新医療系学部だより

福島県立医科大学新医療系学部設置準備室 久保 均

前回は、新医療系学部の設置について（中間まとめ）の素案についてお伝えし、3つのポリシーについてお話ししました。少々堅くて読みにくかったですねごめんなさい。今回はもっと堅くなりますが、これらのポリシーについてもう少し詳しくお伝えいたします。

皆さんが卒業された大学、あるいは皆さんのお子さんが通う大学のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、そしてディプロマ・ポリシーの内容をご存じでしょうか？多分、昔に大学を卒業された方は、そんなものなかったぞ！とおっしゃるでしょう。今、お子さんが大学生の方、あるいは高校生で受験を控えている場合は、ああ聞いたことある！とおっしゃるかもしれません。それくらい、これらのポリシーが制定されるようになったのは最近のことです。平成28年3月31日に、中央教育審議会大学分科会大学教育部会から、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドラインが出されています。興味のある方は

([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1369248.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1369248.htm))

でご確認ください。それぞれのポリシーは、こんな風に定義づけられています。

**ディプロマ・ポリシー**：各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

**カリキュラム・ポリシー**：ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成しどのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。

**アドミッション・ポリシー**：各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえどのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素」についてどのような成果を求めるか）を示すもの。（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多

様な人々と協働して学ぶ態度

つまり、どのような人材を輩出するかを規定するのがディプロマ・ポリシーで、それを達成するための教育内容や方法を示すものがカリキュラム・ポリシー、これら二つのポリシーを踏まえてどのような学生に来てもらいたいのか、を示すのがアドミッション・ポリシーということになります。ですので、これらを知っておくことで、大学が何を考えているか、どんな人材を出そうとしているか、どんな学生に来てもらいたいのか、が分かってきます。（もう少し突っ込むと、どんな入試をするかも……。）

私ども新医療系学部設置準備室でも、学科毎にこれらのポリシーの策定を検討しています。まだ検討中ですが、診療放射線科学科（仮称）では次のように考えています。まずは、ディプロマ・ポリシーです。（もちろん、まだ決定しておりません。検討中の内容です。）

診療放射線科学科では、本学及び本学部の教育理念や学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、かつ、本学科の設置理由を踏まえ、以下の全てを満たす者に学位を授与する。

1. 電離・非電離放射線の特性を熟知し、的確な診断・治療に資する診療情報を可能な限り低侵襲・低被ばくで提供できる者。
2. 診療放射線科学領域の専門家であるという自覚と能力を有し、その職責を全うできる者。
3. 患者に寄り添い、的確な説明・診療の実施を行うことができる者。
4. 他職種と連携・協働し、患者のために自己研さんを継続的に実施できる。
5. 医療倫理を十分に理解し、なすべきこととなさざるべきことを的確に判断・実施できる者。
6. 自身の役割を理解・認識し、医療技術の発展や情報・放射線管理の進歩に貢献できる。
7. 福島の放射線災害の状況を的確に把握・分析し、県民・国民への情報発信、説明をできる者。
8. 県民・国民に寄り添った放射線災害への対応を行うと共に、放射線災害・危機管理における診療放射線技師の新たな役割を理解できる者。

さて、我々はどんな診療放射線技師を輩出したいと考えているのでしょうか？

## ～会長 「オンレコ」～

## 1 「医療体験セミナーの開催」

9月18日(月・祝)に医療体験セミナーが、ピックパレットふくしまで開催されました。今年で2回目との事ですが、技師会としては初めて参加をしました。搬入時間とか不手際がありましたが、何とか進める事が出来ました。これも休日返上でお手伝い頂いた会員の方、福島医大の久保先生、AMINの須藤さんのご協力の賜と思います。

440名の県内中学生は、医療に興味があり対応した我々も大いに刺激を頂きました。AMINによるWSでの3次元処理体験、インスタントカメラでの擬似撮影とプロテクター着用の体験、技師紹介の素晴らしいプレゼン等を行いました。広報グッズは、220個を配布出来たので半数はブースに立ち寄ってくれた事になります。中には何回も顔を出す子や、WSの説明を長時間も熱心に聞く子もいました。4年後に出来る福島医大新学部についても、しっかり説明や宣伝が出来ました。ただ、ラジエーションハウスの漫画に大勢集まる姿は、やはり中学生だなども感じました。

大勢の中学生に対応するのは大変でしたが、素直に説明に耳を傾ける姿勢はこちらが好印象を受けました。身体的には疲れましたが、やり遂げた達成感は気持ちいい

ものでした。高校生ほど進路が決まっていない中で、このような体験セミナーはとても有意義な企画だと考えます。

## 2 「全国会長会議」

9月22から24日まで日放技学術大会が函館で開催されました。中日の23日夕方から全国会長会議が開かれ出席しました。柔道整復師の法制案への危機感と反対声明、61歳以上の会費減額案等が報告されました。アンケート集計の少ない県は、会長から名指して批判されました。福島も1件のみですので、次回は増やしたいと思います。

最後には政治連盟について、後援会への加盟を迫られました。柔道整復師の四肢撮影等を止めるためにも、政治力が必要だと力説していました。

## 3 「東北会長会議」

10月27日(金)青森での東北放射線医療技術学術大会の前日に、教育指導者と合同で開催されました。女性技師限定が、同じ会費で会員なのに男性が入れないのは問題だとなりました。結局、青森独自開催で会場費も別にする事で決着しました。

福島県からは、フレッシューズセミナー等の開催が、日放技と県とで曖昧なので契約を結ぶようにと公認会計士から指摘がありました。日放技へその旨を要望して欲しいと地域理事へ依頼しました。

**【第6回 福島救急撮影カンファレンス  
(Fukushima Emergency Imaging  
Conference)】開催**

平成29年10月21日に「知りたかったことが今日分かる！」というテーマのもと、県内の放射線技師を中心に95名の参加がありました。

恒例になりました各施設による症例紹介では、脳静脈洞血栓の解説と症例を紹介してくれた福島医大の角田さん、磐城共立病院の皆川さんには、吐血のIVR症例を呈示があり、最後に竹田総合病院の平松さん、虫垂炎・憩室炎の解説そして読影のポイントを説明して頂きました。

教育講演は、「この病気を疑うときはこの検査値をみよう」太田西ノ内病院臨床検査技師の田村先生です。CTなどの検査施行、読影補助には検査値の把握は必須であり、繰り返しの学習が必要です。日々の業務においても検査値を常に注意しながら検査したいと思いました。

「IABP / PCPSについて」星総合病院臨床工学技士さ



んの関根先生。IABPとPCPSの解説ですが、補助循環の必要性とその効果など短い時間で丁寧にまとめて頂きました。非常に分かりやすい説明でした。

最後の特別講演は、太田西ノ内病院の爲田先生。解剖の話では、膜・腔を焦点にあててCT画像を供覧しながら解説を頂きました。炎症の波及、出血の広がりなど、上記を意識するのとならないのでは画像の把握が全然違い

ます。非常に勉強になりました。お話はAiにも及び、また最後には我々に熱いメッセージと激励を頂きました！

福島救急カンファレンスは、救急領域に焦点をあてた研究会です。診療放射線技師のための救急医療における知識の向上、そしてすぐ実践できる技術情報の提供を目指し年2回開催しています。次回は、来年3月10日福島テルサで開催します。奮ってご参加下さい。(田代)

## 地区だより

### 県南地区

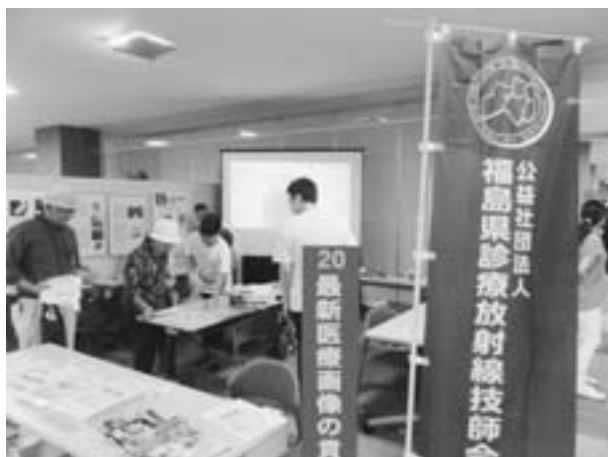
#### 「ピンクリボン in 郡山 2017 参加」報告



平成29年10月22日(日)星総合病院にて、ピンクリボンin郡山 2017が開催されました。東北女性診療放射線技師ワーキンググループから、入浴剤と自己検診方法のリーフレットを配布しました。技師会からは、検診見学ツアーとして、実際の施設をお借りして、X線乳房撮影装置と超音波装置、検診バスを参加者に見学していただきました。悪天候となり参加人数は多くはありませんでしたが、X線乳房撮影装置の説明では、圧迫の重要性や乳腺濃度による画像の見え方などを伝えることができ、有意義な企画となりました。(國分)

### 県北地区

#### 「健康フェスタ2017に参加」



平成29年9月24日(日)福島市M A Xふくしま4F「アオウゼ」にて健康フェスタ2017が開催され県北地区協議会でも「最新医療画像の貢献」と題してブースを構え、放射線技師の業務内容や最新の放射線撮影技術などを実際の画像などを使い展示しました。約200名の来場があり、最新の放射線技術に関して質問も多くその関心の高さを感じました。(阿部)

## 会費の納入は お済ですか？

納入期限は9月末でした。

お済でない方は  
速やかに納入いただきますよう  
ご協力のほどよろしく申し上げます

## 会津地区

### 「第25回環境フェスタ&第33回健康まつり」開催

平成29年9月17日「残そう美しい地球！次代を担う子供たちへ（環境フェスタ）」「正しく知ろう、自分の体（健康まつり）」をキャッチコピーに2つのイベントが鶴ヶ城体育館と文化センターにて同日開催されました。健康まつりの展示コーナーでは放射線検査の紹介があり、会津地区の技師会員数名がスタッフとして参加し200名を超える方々にご来場頂きました。雨天にも関わらず例年同様多数の方に足をお運び頂き大変有意義な催しとなりました。（佐藤）



(健康まつり会場の様子)



(放射線検査展示コーナーの様子)

### 「会津地区協議会交歓会」開催

11月2日(木)山鹿クリニックにて、新人や若手技師を始めとした会員相互のコミュニケーション促進を目的として開催されました。鈴木委員長より「診療放射線技師会について」お話をいただき、教育セミナーとして「医療従事者に求められる接遇」第一三共株式会社 東北支店 岩澤 利夫先生、「医療施設におけるサーベイメータと線量計」株式会社日立製作所 木村 圭介先生よりご講演いただきました。

岩澤先生からは、接遇で重要なのは第一印象、言葉使いや態度であり、患者さんへの気配りを大切にし、精神的な不快感を上昇させない環境を保つことが医療従事者と

して大切であることを再認識させられました。木村先生より、基本的な測定方法と新型サーベイメータや線量計のご紹介をしていただきました。

その後、会場を移して懇親会が和やかに行われ、有意義な交歓会となりました。（板橋）



## 浜通地区

(相双地区)

### 「平成29年度浜通り地区協議会夏期研修会」開催



平成29年9月16日(土)に夏期研修会がいわき市立保健センターにて開催され、39名の技師の皆さんが参加してくれました。

「最新のCT撮影技術について」という演題で、東芝メディカルシステムズと、フィリップスエレクトロニクスジャパンの2社に講演していただきました。CTに対しては他社も含めて多様な画像処理、被曝低減等、多くの機能をつけて対応されていますが、今年の技術学会にも提示された技術を中心に説明していただきました。

特にフィリップスのIQonスペクトラルCTはとても興味をわく技術だと思いました。（大井）

(いわき地区)

「市民フォーラム (救急医療・いわき2017)」開催



平成29年9月17日いわき市総合保健福祉センターにおいて、市民フォーラム (救急医療・いわき2017) を開催致しました。本当はこわい 高齢者の入浴をテーマに取り上げられ、特別講演は「気をつけて お風呂の事故 高齢と入浴」と題し、社団法人容雅会中村病院 中村雅英先生に、安全に入浴するために注意する点を過去の統計や入浴が体に及ぼす影響などからわかりやすく教えていただきました。また、いわき消防本部の方々による心肺蘇生・AEDの実技指導と7年ぶりに行われた寸劇「お風呂の救急」を皆さん楽しく観戦していました。

(菅原)

## 編集後記

朝夕の寒さが身にしみる季節となりました。急に木々が葉を落とし始め冬が近づいているように感じます。こんな寒いときには、温泉やお風呂で温まるのが私は大好きです。今回のいわき市民フォーラムでの公演地区便りでも書きましたが、冬はお風呂の入り方によって危険度が上がります。お風呂は新陳代謝を活性化し、爽快感得られ、心身をリフレッシュしてくれます。正しい入浴習慣を身に付け健康に2017年が終わりますように。

(菅原)

## 《第2回 FANTA 福島血管撮影技術セミナー開催のお知らせ》